

先月10月27日に一般社団法人 高齢者活躍支援協議会・シニアセカンドキャリア推進協会の共催シンポジウム「65歳以上をどう生きるか!どう働くか!」が開催された。同テーマでの開催は第2回目。今回のシンポジウムの内容を紹介する。

# 一生働く!

オレンジ世代の「生きがい」探し

■高齢者自身の意識改革を  
同シンポジウムの開会にあたり、挨拶に立った高齢者活躍支援協議会会長の渡辺利夫氏は、近年における日本の高齢者の犯罪率、自殺率の高さについて触れ、その原因の一端は高齢者の生きがい喪失にあるのではないかと言及した。

その一方で、高齢者の平均寿命は年々延びており、最新の発表によると、男性80・7歳、女性87・1歳に達し、ともに過去最高になっている。60歳や65歳で定年を迎え仕事の第一線から離れた人たちは、20数年もの時間を、喪失感に襲われながら生きていく可能性が高いと指摘した。

「これからは、65歳以上でも働くことが普通だと、高齢者自

## 65歳で意識の改革を

身がその意識を変えていかなければならない。企業側もより積極的に高齢者を雇用すべきです。スイスの哲学者、カール・ヒルティは著書『幸福論』に、『仕事は義務ではない。我々は働く権利があり、仕事もたらす幸福が人を豊かにする』と書いていますが、共感できます」

(渡辺氏)

さらに、ヒルティが挙げる「仕事を上手にする4つのコツ」についても紹介した。①とにかく着手する②準備に時間を掛け過ぎない③やる気を自ら引き出す。ただ待っていてはいけない④毎日決まった一定の時間、仕事をする「ことが肝心だ」という。この4つのコツこそ、高齢者に向けての最良のアドバイスになるのではないかと渡辺氏は付け加えた。

■各人が市場価値を持つ重要性  
シンポジウム後半であるパネルディスカッションでは、高齢者活躍支援協議会の副理事長・岡本憲之氏がコーディネーター役を務めた。同氏は、欧米諸外国の職に就く「就職型(ジョブ型)」の雇用形態に比べ、日本型雇用システムは会社に入る「入社型(メンバーシップ型)」で、日本における「職種別労働市場(外部労働市場型)」の未発達につながっているという。

そのため、定年でメンバーから外れた高齢者は、会社を辞めれば「会社価値」がなくなり、外部で通用する「市場価値」を持たない場合が多く、再就職時に得意な職種がなくマッチングできないケースが多々あると指摘した。

では、高齢者に向いている職種は何なのか、高齢者就労市場の今を熟知している人材派遣業界の3人がディスカッションを繰り広げた。その内容は次回に。(オレンジ世代取材班)



シンポジウムで講演する高齢者活躍支援協議会会長の渡辺利夫氏

るか! どう働くか!

13:30~16:30

社会をよくなるための  
テレビ